

次に鉢に飯を次ものなり、されば飯次といふと、人の語られし、

〔茶道筌蹄〕^五食次

朱塗 黒塗 朱手付 黒手付 何れも利休形也

網の繪 原叟好、手なし、杓子朱塗、

〔相良文書〕^{三十六}慶長拾一季丙午江戸御屋形作日記

永樂貳貫九百九十三文買にて 遣方[○]中

五月十八日 一永樂八文 おけ一ツ、めしつぎ、

〔槐記〕享保十二年五月十八日、深譚院殿、拙道[○]山科 御茶下サル[○]中 御會席[○]中 御食次[○]手付ツ

蓋ナ

〔槐記續編〕享保十九年四月十一日、御茶、入江様、右京大夫、拙[○]中略 御會席[○]中 御飯鉢[○]唐物ノ六角

具ヲ入タルニ、内朱ニシテカケガフアリ、カケゴウノ上ニ六色ノ

〔守貞漫稿〕^六生業 御鉢イレ[○]賣

京坂ニテハオヒツイレ、江戸ニテオハチイレ、トモニ飯器ヲ納ル、春ヲ云、冬月飯ノ冷ザルニ備フ

器ナリ、古クヨリアルニハ非ルベシ、

遮[○]條蓋賣

夏月賣之、蓋江戸ハ專圓形ノ飯器ニシテ、銚輸ノ桶ニ蓋モ縁アリ、夏ハ網代蓋ヲ以テ代之、因云、京

坂不用之、夏月小簾ヲ以テ代蓋ス、飯器亦楕圓形ノ桶蓋ニ椽ナク、サンブタ也、今世諸國楕圓ヲ俗

ニ飯櫃形ト云、是古來楕圓ヲ本トスル故ナリ、又因曰、京坂桶ノ飯器ヲ俗ニオヒツ、或ハメシビツ

ト云、黒漆ノ物ヲオハチト云、江戸ハ都テオハチト云、

〔饅頭屋本節用集〕^知財寶[○]重箱[○]

重箱